

令和7年3月3日



国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所林木育種センター 関西育種場

町指定天然記念物「大村寺のクロマツ」の里帰り

りんぼく
ー林木遺伝子銀行 110 番による巨樹・名木等のクローン増殖の取組ー

ポイント

岡山県吉備中央町が天然記念物に指定している「大村寺のクロマツ」の後継樹の苗木が、国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 関西育種場から里帰りします。

概要

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター関西育種場(岡山県勝田郡勝央町)では、我が国の貴重な林木遺伝資源の保存を図るとともに、品種改良等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。

この事業では、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存を行うとともに、事業の一環として、所有者等の要請により後継樹を増殖する取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を行っています。

今回は、岡山県加賀郡吉備中央町の大村寺から増殖の要請を受けた「大村寺のクロマツ」の後継樹として、つぎ木によって増殖し育てた苗木が里帰りします。

日時：令和7年3月8日(土)9時00分

場所：大村寺(岡山県加賀郡吉備中央町上竹 5600)

問い合わせ先

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター関西育種場

事業責任者：遺伝資源管理課 課長

かしわぎ まなぶ
柏木 学

担当者：遺伝資源管理課 収集管理係長

ちの れい
千野 怜

広報担当者：連絡調整課 課長

ふじた あきひろ
藤田 彰宏

連絡調整課 連絡調整係長

はやし かつひろ
林 勝洋

Tel：0868-38-5138

Fax：0868-38-5139

本資料は、岡山県政記者クラブ、岡山市政記者クラブ及び総社市政記者クラブに配布しています。

背景・経緯

全国には、学校や神社など身近な場所で地元の人々に親しまれ、ふるさとのシンボルとなっている天然記念物や巨樹・名木等が数多く存在します。こうした巨樹・名木等は、長い年月にわたって、風雪に耐え生育し続けているので、自然環境に対する適応性や抵抗性に優れている可能性が高く、林木遺伝資源として貴重なものです。

このため、林木育種センターでは、これら巨樹・名木等の収集・保存を進めるとともに、所有者等からの要請により衰弱しているこれら樹木の後継樹を増殖し、里帰りを行う取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を平成 15 年から実施しています。これまでに、全国から 333 件の要請があり、255 件の巨樹・名木等の後継樹の里帰りを実施してきました（令和 5 年度末）。後継樹は、さし木やつぎ木で増殖したクローン苗木であり、親木と同じ遺伝子を持っていることから二代目として大きく成長することが期待されます。

内容

大村寺の庭園には、かつて 2 本の大黒松がありましたが、吉備中央町指定天然記念物であった 1 本が枯死し、残る現在の松は「二代目錦松」と呼ばれ、地元の人々により大切に保存されています。今回里帰りする後継樹の親木はこの「大村寺のクロマツ」（二代目錦松）で、推定樹齢 370 年、樹高 27m と県下のクロマツでは一番の高さとなります。岡山県指定郷土記念物にも指定されており、天平年間に聖武天皇の祈願所として行基菩薩が創建したと伝えられる功德山大村寺のシンボルとなっており、岡山県の郷土記念物にも指定されています。

近年樹勢が弱っており、全国で猛威を振るっている松枯れ病によって枯損してしまうのではないかと大村寺より令和 5 年度に相談を受けました。確認したところ何度か治療を受けており、幹の傾きをワイヤーで押さえ、空洞を埋める処置などが行われていました。このような状況から、保存の必要性を認め、「林木遺伝子銀行 110 番」の依頼を受けるに至りました。

令和 6 年 3 月に後継樹のつぎ木増殖を実施し、17 本の苗木を育成することができました。このうち 3 本の後継樹苗木が令和 7 年 3 月 8 日に里帰りし、大村寺の庭園内へ植栽されます。

図、表、写真等



「大村寺のクロマツ」



後継樹苗木